

DIPL を創業して 20 年目となりました。卒業生総数は千余名となります。
生徒の皆さん、そしてご父母の皆様には大変お世話になり、本当に有難うございました。
生徒さん自身がまだ見ぬ自分の姿に自らの可能性発見に挑戦する神々しいものを感じてきた 20 年間です。
本当に有難うございました。小島最後の DIPL 通信は、「挑戦する思春期の子供たち」の書籍をご紹介します
と思います。

DIPL 代表 小島裕一

「挑戦する思春期の子供たち」

つい勢いで右のものも左とってしまう「思春期」の子供たち。
将来のことがイメージできないだけでなく、将来のことより“今大切なこと”を優先させたがる思春期の子
供たち。
そんな子供たちに私たち大人(ご両親様)が、①思春期ってこんな時期なんだと少しだけでも理解すること。
②そして、子供に周りから“認められている”と感じさせてあげること、が出来たら子供たちは変わる！
こんな発想のもと書かれたのが、
『何を言っても聞かない思春期の我が子がちょっと頑張ってみようかなと言い出すシンプルな 3 つの秘
訣』(木村玄司著、1300 円税別) という書籍です。
なるほど！確かに！一つやってみよう！と思う所が、随所に出てきますよ。
抜粋しながらご紹介すると・・・

○問題解決の仕方は、男女の違いがある。

男性は殻に閉じこもって解決しようとする傾向があり、一度周りから自分をシャットアウトして自
分の世界に入りたがる。だから、考えている時にいろいろ話しかけると「うるさいなあ！ちょっと静
かにしてくれ！」と怒る時もあります。それに対して、女性は話しながら解決していこうとする。あ
あでもないこうでもない。うなずいて、うなずいて、ついつい話したくなってもやっぱりうなずいて、
じっくりと聞いてあげることがものすごく子供のため(女子)になるのです。「頑張れ！」と励ますこ
とよりも、うなずいて聞いてあげることの方が、圧倒的にその後のやる気や自信を生み出してあげら
れるのです。

○大人(ご両親)の失敗談を話してあげることで、いつも不安を抱えているお子様がその不安を癒し、
元気や勇気を与えてくれるものです。

○お子様が写っている写真(特に笑顔のもの)をご家庭の目立つところに飾ってあげてください。
無意識に「家族の一員なんだ」というご家族における存在感を感じてもらえます。

○出来れば一日一回、最低でも週に一回はお子様「ありがとう」と伝えられると良いですね。

「ありがとう」は、親も子供もとても幸せにする言葉です。
「ありがとう」と言われると、人の役に立てた嬉しさを味わえます。
「ありがとう」と言われると、自分の事を認めてくれたように感じる。
「ありがとう」と言われると、自分のことが好きになります。

○思春期の男子には「えらいね！」より「さすがだね！」の言葉かけは、子供たちの意識を高めることになる。

○思春期の子供には「自分で決めさせる」ようにする。「何日までにやろうとしているの？」という期限を聞いてあげることが大切。

期限があるからこそ、人はそれに向けて行動しようとし、また「何点を目指しているの？」など数値化することが大切（魔法になる）。

○お子様の前で先生の悪口は言わない。逆に先生を誉める。

このような、周りが子供を一人の人間として認めてあげること、そして子供自らがそれを感じる事が出来れば、自分から一つ二つと挑戦し、結果的に大きく育つチャンスをつかむのです。

お父様&お母様！皆様も是非一緒に挑戦してみませんか。